

## 前回提示分

## 本県農林水産業を取り巻く情勢

## ① 食料生産・供給の不安定化

- ・世界人口の急速な増加、国際紛争のリスクの高まり
- ・地球温暖化の影響による自然災害の頻発化・激甚化、家畜伝染病のリスク増

## ② マーケットを取り巻く情勢の変化

- ・人口減少に伴う国内市場の縮小と経済のグローバル化による国外市場の拡大

## ③ 価値観や行動様式の変化

- ・SDGsの達成に向けた取組の広がりや田園回帰・移住への関心の高まり

## ④ テクノロジーの進化

- ・ロボットやAI、IoTを活用した技術開発の進展

## ⑤ 農業者の高齢化と後継者・担い手不足の深刻化

- ・10年後には基幹的農業従事者が半減する見通し → 経営面積を2倍にする必要

## ⑥ 肥料、農薬、燃料などの生産資材や飼料価格の高騰

- ・R2から上昇しR5以降は高止まり → 生産性の向上や価格転嫁が不可欠

## 取組の視点

## 視点1 産地を支える担い手の確保・育成

- 新規就農者の確保と定着促進
- 農地の集積・集約化の促進
- 企業の経営体の育成
- 農業サービス事業体の創出
- 多様な人材の確保
- 円滑な経営継承の促進

## 視点2 飛躍的な生産性の向上と持続可能な農業生産の推進

- スマート技術の導入促進
- 水田の大区画化と汎用化の推進
- 有機農業等の推進
- 温暖化対応技術の普及

## 視点3 効率的で収益性の高い複合型生産構造の確立

- 土地利用型野菜の生産拡大
- 企業と連携した産地づくり
- 野菜の単収・品質の向上
- 秋田牛・比内地鶏の生産拡大
- 耕畜連携の横展開
- 家畜防疫体制の強化

## 視点4 需要に応じた米生産と水田のフル活用

- 米の増産と輸出拡大
- 超省力・低コスト生産の推進
- 大豆・そばの単収・品質向上
- 飼料用とうもろこし等の生産拡大

## 視点5 農畜産物のブランド化と国内外への販路拡大

- オール秋田での輸出拡大
- 食の外部化・簡便化への対応
- 効果的な販売促進の実施
- 異業種連携による6次化の促進

## I 農業の方向性と主な取組

## 方向性(1) 産地を支える担い手の確保・育成

## ① 意欲ある新規就農者の確保と定着促進

- ・移住就農者の確保に向けたお試し就農の実施
- ・アグリフロンティア育成研修の充実 など

## ② 農地の集積・集約化による規模拡大の推進

- ・農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約 など

## ③ 地域農業をけん引する企業の経営体の育成

- ・研修会の開催や専門家の派遣による経営改善支援
- ・集落営農の連携・統合の促進 など

## ④ 集落型農業法人等の円滑な経営継承の推進

- ・経営継承計画の策定推進
- ・人材確保に向けた就業環境の整備 など

## ⑤ 営農を支える多様な労働力の確保

- ・農業支援サービス事業体の育成
- ・外国人労働力の活用促進 など

## 方向性(4) 農畜産物の付加価値向上と販路拡大による所得の向上

## ① オール秋田で取り組む農畜産物の輸出拡大

- ・農畜産物輸出促進協議会による戦略の策定・推進
- ・輸出に取り組む農業者の掘り起こしと産地づくり など

## ② 多様なニーズに対応した商品づくりと販路拡大の推進

- ・企業と産地が一体となったブランド価値の高い商品開発
- ・実需者ニーズに応じた県産農畜産物のマッチング など

## ③ 異業種連携による6次産業化の促進

- ・加工商品の開発や販路拡大 など

## ④ ブランド価値を高める効果的なプロモーションの展開

- ・企業の取引ネットワークを活用した販売促進 など

## 方向性(2) 需要に応じた米生産と土地利用型作物の生産拡大

## ① 需要の獲得による米の生産拡大

- ・輸出など新たな需要の獲得に向けた販売促進
- ・スマート技術の導入や共同利用施設の再編 など

## ② 水稻の省力・低コスト生産の推進

- ・超低コスト生産に取り組むモデル経営体の育成
- ・省力・低コスト生産につながる乾田直播技術の確立 など

## ③ サキホコレのブランド確立

- ・ICTを活用した高品質生産技術の開発・普及
- ・効果的なプロモーションや企業と連携した販売促進 など

## ④ 大豆・そばの単収・品質向上の促進

- ・排水対策などの基本技術や栽培管理に関する指導
- ・大豆の開花期追肥等の現地先行技術の拡大 など

## 方向性(5) ネット・ゼロに貢献する農業生産の推進

## ① 有機・特別栽培など環境保全型農業の取組拡大

- ・化学農薬・化学肥料の低減体系への転換促進
- ・みどり認定の取得促進 など

## ② 農業分野におけるJ-クレジットの取組拡大

- ・水稻栽培における中干し延長等の取組拡大
- ・優良事例の収集と横展開 など

## ③ 温室効果ガスの排出削減の取組促進

- ・水田における秋耕起の促進
- ・施設園芸における燃料低減技術の導入 など

## 方向性(3) 収益性の高い複合型生産構造の確立

## ① 企業等と連携した園芸産地づくりの推進

- ・企業の経営資源を活用した園芸作物の生産拡大
- ・トレーニングファームを活用した新規栽培者の確保 など

## ② 園芸作物の単収・品質向上の促進

- ・JAグループとの連携による技術指導の強化
- ・労働力の減少に対応した機械化体系への転換 など

## ③ 秋田牛や比内地鶏等の畜産物の生産強化

- ・生産基盤強化に向けた施設・機械の導入 など

## ④ 飼料用とうもろこし等の生産拡大と耕畜連携の推進

- ・飼料用とうもろこしの利用拡大に向けたモデル実証・普及
- ・堆肥の活用促進に向けた散布機械等の導入 など

## ⑤ 畜産物の安定生産に向けた防疫体制の強化

- ・家畜伝染病の発生に備えた防疫演習の実施
- ・県獣医師職員の確保に向けた修学資金制度等の運用 など

## 方向性(6) デジタル化等による飛躍的な生産性の向上

## ① 生産性の向上に向けたスマート技術の開発と普及拡大

- ・水田の栽培管理を効率化する高精度なほ場均平技術の開発
- ・実証ほを活用したスマート技術の普及 など

## ② 水田の大区画化と汎用化の推進

- ・スマート技術の導入効果を最大限発揮する基盤整備の推進
- ・営農計画に応じた排水対策工事の実施 など

## ③ 温暖化に対応した品種や技術の開発・普及

- ・高温登熟性を備えた水稻品種の開発・導入
- ・高温対策技術の実証・普及
- ・かんきつ類など新たな果樹の栽培に関する試験研究 など

## 前回提示分

### 本県農林水産業を取り巻く情勢

- ① 食料生産・供給の不安定化
  - ・世界人口の急速な増加、国際紛争のリスクの高まり
  - ・地球温暖化の影響による自然災害の頻発化・激甚化、家畜伝染病のリスク増
- ② マーケットを取り巻く情勢の変化
  - ・人口減少に伴う国内市場の縮小と経済のグローバル化による国外市場の拡大
- ③ 価値観や行動様式の変化
  - ・SDGsの達成に向けた取組の広がりや田園回帰・移住への関心の高まり
- ④ テクノロジーの進化
  - ・ロボットやAI、IoTを活用した技術開発の進展
- ⑤ 林業従事者の減少と労働力不足の深刻化
  - ・年々増大する造林保育事業に対応するため更なる林業従事者の確保が必要
- ⑥ 燃料などの生産資材の高騰
  - ・R2から上昇しR5以降は高止まり → 生産性の向上や価格転嫁が不可欠

### 取組の視点

#### 視点1 林業を支える人材の確保・育成

- 即戦力となる人材の育成
- 女性・若者の就業促進
- 新規就業者の確保
- 魅力的な就労環境づくり

#### 視点2 再造林の更なる促進

- 林業経営体への造林地集積
- スギエリートツリーの普及
- 造林・保育へのスマート技術導入
- 優良種苗の安定供給体制の構築

#### 視点3 生産・供給体制の強化と県産材の販路拡大

- 高性能林業機械の導入促進
- ICTによる生産管理の導入促進
- 建築物の木造・木質化の推進
- 効率的な路網整備
- 木材加工流通体制の強化
- 県産材の輸出促進

#### 視点4 森林の有する多面的機能の維持・発揮

- 全国育樹祭の開催
- 景観保全の推進
- オール秋田での森づくりの推進
- 効率的な森林病虫害対策

## II 林業・木材産業の方向性と主な取組

### 方向性(1) 林業を支える人材の確保・育成

- ①若年層をターゲットとした林業の魅力発信
  - ・高性能林業機械の実演など林業の魅力発信イベントの開催
  - ・情報発信サイトやSNS等による普及啓発 など
- ②移住者や外国人材を含めた多様な新規就業者の確保・育成
  - ・無料職業紹介所による情報発信の強化
  - ・Aターンによる林業への就業促進 など
- ③林業大学校を核とした即戦力となる人材の育成
  - ・林業経営体等と連携した研修カリキュラムの作成
  - ・専門家によるスマート技術などの研修会の実施 など
- ④女性・若者が働きやすい魅力的な労働環境づくり
  - ・林業経営体が行う魅力ある職場環境づくり
  - ・秋田県林業女性会議の提言に基づく取組の推進 など

### 方向性(2) ネット・ゼロに貢献する再造林の促進

- ①森林資源を次世代へつなぐ造林地の集積
  - ・伐採情報の共有化等による効率的な施業体系の構築
  - ・「あきた造林マイスター」による働きかけの強化 など
- ②低コスト・省力造林技術の定着
  - ・造林・保育における低コスト・省力造林技術の導入
  - ・実践フィールドを活用した技術の普及 など
- ③スギエリートツリー等の普及拡大
  - ・エリートツリー等の安定供給に向けた採種圃の整備
  - ・苗木生産者の技術向上等に向けた研修会の開催 など
- ④森林由来のJ-クレジットの取組拡大
  - ・J-クレジット制度の普及啓発
  - ・新たに取組む森林所有者等へのサポート強化 など

### 方向性(3) 生産・供給体制の強化と県産材の販路拡大による賃金水準の向上

- ①効率的な路網整備と高性能林業機械の導入促進
  - ・スギ生産適地内における林内路網の整備促進
  - ・先端技術を搭載した高性能林業機械の導入 など
- ②市場のニーズに対応した木材の加工・流通体制の強化
  - ・秋田県原木需給会議での情報共有
  - ・高品質な木材製品の生産・供給体制の整備 など
- ③建築物の木造・木質化の推進と県産材の利用促進
  - ・県産材を取り扱う工務店等の拡大
  - ・県産材を利用した非住宅建築物のモデル創出 など
- ④秋田スギ等の県産木製品の輸出拡大
  - ・輸出先国におけるプロモーションの実施
  - ・輸出商社と県内製造業者とのマッチング など

### 方向性(4) デジタル化等による飛躍的な生産性の向上

- ①スマート技術の導入による木材生産の効率化
  - ・ICT等を活用した調査・測量・生産管理の効率化
  - ・木材需給情報の共有による流通・販売のスマート化
  - ・木材生産スマート化モデルの確立と機器の導入 など

### 方向性(5) 森林の有する多面的機能の維持・発揮

- ①第50回全国育樹祭を契機とした情報発信
  - ・本県の森林・林業・木材産業の魅力発信 など
- ②オール秋田で進める豊かな森づくり
  - ・森林経営管理制度に基づく市町村主体の森林整備の促進
  - ・ボランティア団体等による森づくり活動の推進 など
- ③効率的な病虫害対策と景観保全の推進
  - ・防除対象区域の絞り込みによる病虫害対策の実施
  - ・景観維持や安全確保のための枯死木等の伐採 など

## 前回提示分

### 本県農林水産業を取り巻く情勢

- ① 食料生産・供給の不安定化
  - ・世界人口の急速な増加、国際紛争のリスクの高まり
  - ・地球温暖化の影響による自然災害の頻発化・激甚化、家畜伝染病のリスク増
- ② マーケットを取り巻く情勢の変化
  - ・人口減少に伴う国内市場の縮小と経済のグローバル化による国外市場の拡大
- ③ 価値観や行動様式の変化
  - ・SDGsの達成に向けた取組の広がりや田園回帰・移住への関心の高まり
- ④ テクノロジーの進化
  - ・ロボットやAI、IoTを活用した技術開発の進展
- ⑤ 就業人口の減少と労働力不足の深刻化
  - ・10年後には漁業就業者が半減する見通し → 新規就業者の確保・育成が急務
  - ・中山間地域は平地の約1.5倍のペースで人口減少 → 地域の活力向上が不可欠
- ⑥ 燃料などの生産資材の高騰
  - ・R2から上昇しR5以降は高止まり → 生産性の向上や価格転嫁が不可欠

### 取組の視点

#### 水産業

##### 視点1 漁業を支える人材の確保・育成

- 新規就業者の確保
- 技術継承の円滑化

##### 視点2 新たな漁業へのチャレンジ

- 新たな魚種・漁法への転換
- スマート技術の導入促進
- 新魚種・未利用魚の利活用促進

##### 視点3 つくり育てる漁業の推進

- 種苗生産・放流の実施
- 蓄養殖ビジネスの拡大
- 害敵駆除等の推進（内水面）
- 漁港・漁場の整備

#### 農山漁村

##### 視点1 地域の特性を生かした多様な農業の推進

- 地域特産作物の生産振興
- 地域資源を活用したなりわい創出
- 交流人口・関係人口の創出
- 農村RMOの推進

##### 視点2 環境対策につながる投資の拡大

- 温室効果ガス排出削減対策
- カーボン・クレジットの取組拡大

##### 視点3 里地里山の保全

- 共同活動組織の連携・合併
- 粗放的農地利用の推進

## III 水産業の方向性と主な取組

### 方向性(1) 漁業を支える人材の確保・育成

- ① 若年層をターゲットとした漁業の魅力発信
  - ・SNSを活用した漁業現場の情報発信
  - ・インターンシップ等による漁業体験の実施 など
- ② 漁業スクールを核とした新規就業者の確保・育成
  - ・ニーズに応じた実践的な技術習得研修の実施
  - ・技術指導体制の充実 など
- ③ 後継者への技術継承の推進
  - ・後継者不在の漁業者と新規就業希望者のマッチング
  - ・後継人材への技術や漁場情報等の継承の推進 など

### 方向性(2) つくり育てる漁業の推進

- ① 付加価値の高い水産資源の維持・増大
  - ・市場価値の高い魚種の種苗生産体制の構築 など
- ② 漁港内の静穏域を活用した蓄養殖ビジネスの拡大
  - ・漁港内の静穏域を活用した養殖技術の開発
  - ・漁業者等による蓄養殖試験への支援 など
- ③ 持続可能な内水面漁業の確立
  - ・種苗生産体制の再構築
  - ・外来魚等の被害調査や駆除の推進 など

### 方向性(3) 新たな漁業への挑戦による所得の向上

- ① 新たな魚種・漁法への転換の促進
  - ・南方系魚種の効率的な漁獲に向けた漁法試験の実施
  - ・漁法の転換・複合化のための漁具等の導入 など
- ② 水産物の高付加価値化と販路拡大
  - ・水産物の鮮度保持等による高付加価値化の促進
  - ・新たな魚種や未利用魚の販路開拓等の促進 など
- ③ スマート技術の導入による操業等の効率化
  - ・漁場マップの自動作成及び情報公開
  - ・AIの活用による漁場予測の試験実施 など

### 方向性(4) 漁業生産の基盤となる漁港・漁場の整備

- ① 生産力向上に向けた漁場整備やブルーカーボンの取組拡大
  - ・漁業生産の安定化等に向けた魚礁の整備や藻場の保全 など
- ② 漁港施設等の機能強化と長寿命化の推進
  - ・漁港施設等の省エネルギー化や長寿命対策の実施 など

## IV 農山漁村の方向性と主な取組

### 方向性(1) 次世代につなぐ持続可能な農山漁村の形成

- ① 地域の活力となる交流人口・関係人口の創出
  - ・半農半Xの取組促進
  - ・地域づくり等につながる交流活動の促進 など
- ② 農山漁村の未来を開く人材育成と農村RMOの構築
  - ・地域の中心となって活動する人材の育成
  - ・農村RMOの形成に向けた実証 など

### 方向性(2) 地域の特性を生かした多様なビジネスによる所得の向上

- ① 中山間地域の特色ある特産物の生産振興
  - ・伝統野菜等の種の保存と栽培技術指導の実施
  - ・メーカーと連携した薬用作物の栽培指導 など
- ② 地域資源を活用したビジネスの創出
  - ・観光業等との連携によるビジネスの創出
  - ・農泊ビジネスの起業に向けた環境整備 など

### 方向性(3) 人と自然が共生する里地里山の保全

- ① 農用地保全活動の促進と活動組織等の体制強化
  - ・活動組織等の連携・統合による広域化
  - ・スマート技術の導入による維持管理の省力化 など
- ② 農地利用の促進による荒廃農地の拡大防止
  - ・粗放的利用による農地保全のための取組推進
  - ・中山間地域における小規模基盤整備等の実施 など